

## 心がほっこり！

### 子どもたちのよき行い。

3学期が始まり1か月がたとうとしていますが、子どもたちの「よき行い」に地域の方からお褒めのお言葉をいただき、全校で心がほっこりしました。

1つ目はお手紙です。「8日、雪の積もった朝8時過ぎに徒歩で出勤している時、交差点の信号で止まった際に手袋を落としたようでしたが、気づかずに歩いていました。すると「すみませ〜ん」と中学生の女の子が追いかけて来て「落としましたよ。」と渡してくれました。学校とは逆方向なのに追いかけて来てくれたようです。「ありがとう。学校、時間大丈夫？」と聞いたら、にっこり笑って学校の方向に走って行かれました。とても寒く、足元も悪い中の出勤でしたが、気持ちがさすがにすくなくなりました。コロナ禍で気持ちが落ち込むことが多いですが、にっこり笑った顔にきっとこれから明るい未来があるように願っております。」という内容でした。



打算や見返りを求めず、純粹に人に親切にすることの美しさ、そこから波及していく心のぬくもりを感じる出来事です。次に、朝からのお電話です。「啓成中卒業生の者です。昨日18:00ごろ、部活帰りと思われる生徒さん3人が私に向かって大きな声であいさつをしてくれました。心がうれしくなったのでお電話しました。」というものです。あいさつは、やっぱり気持ちがよくなるものですね。「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」など、多くのあいさつが啓成中や伊万里、日本、そして世界に飛び交うと嬉しいです。

たくさんの嬉しいご連絡を受け、子どもたちがしっかりと地域に溶け込み、地域と共に生きているのだと心から嬉しくなりました。



## 信じるとは揺るがない自分がいること

最近、16歳の女優芦田愛菜さんのインタビューが、いろんなところで反響を呼んでいます。

イベントで芦田さんが「信じる」ことについて聞かれたときのコメントです。「その人のことを信じようと思いますっていう言葉ってけっこう使うと思うんですけど、それがどういう意味なんだろうって考えたときに、その人自身を信じているのではなくて、自分が理想とする、その人の人物像みたいなものに期待してしまっていることなのかなと感じています。だからこそ人は「裏切られた」とか、「期待していたのに」とか言うけれど、別にそれは、その人が裏切ったとかいうわけではなくて、その人の見えなかった部分が見えただけであって、その見えなかった部分が見えたときに「それもその人なんだ」と受け止められる揺るがない自分がいるというのが、信じられることなのかなって思ったんです。」と言っています。芦田さんの本質は「自分の立場だけでなく、相手の立場からも見てみる」「自分を受け入れてもらうより、まずは相手を受け入れようとする」という優しさにあります。若干16歳の女の子の言葉とは思えないほどの深い言葉です。人間関係に息詰まることは、人生で多々あります。この愛菜ちゃんの言葉を思いだし、もう一度、自分を見つめ直し、揺るがない自分の軸をしっかり持ちたいと思います。



## 休日の緊急連絡について

先日から土日の緊急連絡メールアドレスのお知らせを何度も修正して申し訳ありませんでした。正しくは、1/25(月)13:33に送信した学校からのメールに載せているGmailアドレスが正しいものです。コロナ関連で緊急連絡される場合にご利用ください。よろしくお願いします。

